

## 令和 2 年度 金城大学附属西南幼稚園 学校評価報告書

### はじめに

幼稚園は、教育活動その他の学校運営の状況について評価を行ない、その結果に基づき学校運営の改善を図るため必要な措置を講ずることにより、その教育水準の向上に努めなければならない（学校教育法、学校教育法施行規則）。

幼稚園における学校評価は、以下の 3 つを目的として実施するものとされている（文部科学省『幼稚園における学校評価ガイドライン[平成 23 年改訂]』）。

- ①各学校が、自らの教育活動その他の学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さ等について評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ②各学校が、自己評価及び保護者など学校関係者等による評価の実施とその結果の公表・説明により、適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
- ③各学校の設置者等が、学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ること。

評価の形態には、以下の 3 つがある。

- ①自己評価：各学校の教育活動などの状況について自ら行う評価（法令上、実施および公表の義務がある）
- ②学校関係者評価：保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された評価委員会等が、自己評価の結果について行う評価（法令上、実施および公表の努力義務がある）
- ③第三者評価：学校運営に関する外部の専門家を中心とした評価者により、自己評価や学校関係者評価の実施状況を踏まえつつ、教育活動その他の学校運営の状況について専門的視点から行う評価（法令上の義務付けはない）

今年度、本園では「自己評価」および「学校関係者評価」を実施した。本報告書はこの 2 つの評価結果と今後の改善方策を取りまとめたものである。

## 実施概要

### ●自己評価

今年度の自己評価は、教育理念として「あそびが充実し、学びが深まる教育」、また令和2年度の重点目標として「身近な人との関わりの中での育ち～言葉の伝え合い・豊かな感性と表現～」の実践を掲げ、到達目標は「好きなことを見つけ、「安心」「熱中」のもと、あそびを展開する」とした。評価項目は「あそびの中で十分に体を動かす楽しさを味わう」、「教師や友達と一緒にあそびを進めていく楽しさを味わう」、「身近な自然や動植物に触れて生活し、その大きさ・美しさ・不思議さなどに気づく」、「教師や友だちと心通わせる中で、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむ」「心動かす出来事などに触れ完成を働かせる中で、感じたことや考えたことを自分で表現したり友だち同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わう」の5項目とした。評価指標としては「努力指標」、「成果指標」、「保護者満足度指標」の3指標を設定し、自己評価活動を行った。

評価の流れは、毎月の月案（ひと月の教育計画）、毎週の週案（1週間の教育計画）を作成し、これらの結果の振り返りを通して自己評価を繰り返し、12月には全員参加で振り返りを行い、またその内容について専門家から助言と指導を頂いた。さらに2月には各クラス担任が「自己評価表」および「自己評価シート」を作成し、保護者を対象として実施したアンケート調査の結果も踏まえて自己評価結果を取りまとめた。例年保護者に対しては報告会を実施しているが、今年度は新型コロナウイルス感染防止のため報告会は中止とし、保護者代表としてPTA会長と母親代表に書面にて報告した。また報告書については、幼稚園にて閲覧できることを保護者全員に通知した。

### ●学校関係者評価

評価員として、PTA会長を含む保護者の方2人、隣接する松陽小学校の校長、本園の前園長の合計4人に依頼した。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、書面にて自己評価結果を報告すると共に、評価票への記載を依頼し、後日、返信があった。

## 結果

### ●自己評価結果

#### ①全体的な自己評価

- ・教育目標：一人ひとりの個性をのばしながら、人間形成の基礎を養い、自主的にあそべる子どもを目指す
- ・教育理念：あそびが充実し、学びが深まる教育
- ・令和2年度の重点目標：身近な人との関わりの中での育ち  
～言葉の伝え合い・豊かな感性と表現～
- ・評価項目：
  - \*あそびの中で十分に体を動かす楽しさを味わう
  - \*教師や友達と一緒にあそびを進めて行く楽しさを味わう
  - \*身近な自然や動植物に触れて生活し、その大きさ・美しさ・不思議さなどに

気づく

\* 教師や友だちと心通わせる中で、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむ

\* 心動かす出来事などに触れ完成を働かせる中で、感じたことや考えたことを自分で表現したり友だち同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わう

評価指標	実現状況の達成度判断基準	自己評価 (※)
<p><b>【努力指標】</b></p> <p>教師との信頼関係のもと、安心して園生活を送る中で、経験したことや心が動いたことを教師や友だちに伝えたいくなるような生活や、あそびが重質した環境を整える。</p> <p>子どもが何を感じ、何に気づき、どんな連想をしているのか、子どもの表現からそれに至るまでの過程を読み取る「子ども理解」を深める。</p>	<p>A：十分達成されている B：達成されている C：あまり達成されていない D：取り組みが不十分である</p>	<p><b>B</b></p> <p>A評価：1人 B評価：3人</p>
<p><b>【成果指標】</b></p> <p>好きなことを見つけ「安心」「熱中」のもとあそびを展開する</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>受け止め、認められる経験を積み重ね「伝えたい」「知りたい」という気持ちや通じ合う喜びや心地よさを感じる。</p> <p>自分達の手で形になっていく経験から、心の育ちを深め、言葉や表現の豊かさが深まる。</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>言葉による伝え合い、豊かな感性</p>	<p>A：ほとんどできている B：できている C：あまりできていない D：できていない</p>	<p><b>B</b></p> <p>A評価：2人 B評価：2人</p>
<p><b>【保護者満足度指標】</b></p> <p>園生活を通じて、わが子の「みんなの中の一人」として成長を感じ、満足している。</p>	<p>A：十分満足している B：満足している C：やや不満である D：不満である</p>	<p><b>A</b></p> <p>A評価：4人</p>

(※) 自己評価の結果は、各クラス担任(4人)の評価から総合的に判定した。

②各クラス担任等による取組状況・自己評価

クラス等	取組状況・自己評価等	課題・改善策等
満3歳児	満3歳児クラスの子にとって、言葉の役割とは何だろうと改めて考え、保育を見つめることができた。	満3歳児クラスは途中入園が多く、入園当初は個々にゆったりと向き合う時間が必要な場面も多いという課題があるが、チーム保育で身近な大人との関わりや見守りの中で安心感を育んでいきたい。
3歳児	3歳児クラスの子にとって、自分の思いや感じたことを全て言葉で伝えることは難しいが、伝えようとする子どもの姿を見逃さず、1人1人とじっくりと向き合うことの大切さを感じる事ができた。	教師が子どもにとっての大切な環境であるため、子どもの心が豊かになるよう、友だちや家族、教師に思いを伝えたいとなるような心が動かされる活動に多く取り組んでいきたい。また、子どもが相手の思いや言葉を理解したいという気持ちが育つように1人1人と丁寧に関わっていきたい。
4歳児	子どもと焦らずじっくり関わりを持つことを意識して取り組めた。また、保護者と連絡帳やクラスだよりを通して連絡を取り合いながら一緒に成長を見守ることができた。	クラスの1人の心配な気持ちが高まると、その思いに全体が流されてしまうことが課題であるが、気持ちを切り替え、前向きに取り組めるように関わっていきたい。
5歳児	子どもがクラスの一員として安心することで自己表現が心地良くなるが、その環境を作り出すことができ、子どもは生活に必要な言葉や人とつながるための言葉を覚えていくことができた。	デジタル化が進み、言葉が少なくても事足りることも多い時代であるからこそ、積極的に声を発し豊富な言葉で自分や人を理解しようとする場面を、これからも大切にしていきたい。
総括	子どもとじっくり向き合い、伝えたいくなるような生活やあそびの充実、心が動く経験を積み重ねてきたことにより、言葉や表現の豊かさの育ちが大きく見られた。その中で、自分達力で形になっていく経験を積み重ねてきたことが、達成感や自信へと繋がり、さらなる心の育ちや言葉や表現の豊かさへと繋がっていった。	教師自身の関わりや子どもを読み取る力の質の向上が大きく求められるという課題を確認し、今後、それらの教師の質向上に取り組んでいきたい。

### ③保護者アンケート結果（令和3年2月12日実施）

Q1 言葉による伝え合いや、豊かな感性と表現。どちらも安心して自分を出せる環境でなくては育むことができません。お子様にとって幼稚園は、安心して生活できる場であると感じますか？（回答者 29 人）

「あてはまる」	86%（25 人）
「だいたいあてはまる」	14%（4 人）
「あまりあてはまらない」	0%（0 人）
「あてはまらない」	0%（0 人）

Q2 子どもは「伝えたい」と思う人に向けて、言葉を発します。教師が子どもにとって思いを「伝えたい人」になる。ここから「言葉による伝え合い」が生まれます。お子様にとって、教師はそのような存在であると感じますか？（回答者 29 人）

「あてはまる」	93%（27 人）
「だいたいあてはまる」	7%（2 人）
「あまりあてはまらない」	0%（0 人）
「あてはまらない」	0%（0 人）

Q3 伝えたい思いがあふれていても、その思いを言葉だけで表現することは大変難しいことです。子どもの言葉に丁寧に耳を傾け、受け止めたり、問いかけ、答えたりしながら、共に話を作り上げていくことが大切です。お子様にとって、教師はそのような存在であると感じますか？（回答者 29 人）

「あてはまる」	97%（28 人）
「だいたいあてはまる」	3%（1 人）
「あまりあてはまらない」	0%（0 人）
「あてはまらない」	0%（0 人）

Q4 友だち同士の関係が深まると、子どもは遊びや生活の中で、心動いた経験などを「みんなにつたえたい」と思うようになります。入園、進級当初よりお友だちとの関係が深まっていると感じますか？（回答者 29 人）

「あてはまる」	90%（26 人）
「だいたいあてはまる」	10%（3 人）
「あまりあてはまらない」	0%（0 人）
「あてはまらない」	0%（0 人）

保護者アンケートの結果、保護者はおおむね本園の教育成果を評価していただいている様子が見えられた。

●学校関係者評価結果

評価項目	評価	感想と所見
<p>【教師の質】</p> <p>安心して園生活を送る中で、教師や友達に伝えたいくなるような、生活やあそびが充実した環境を整える。</p> <p>子どもの姿や表現から、子どもの思いや過程を読み取る「子ども理解」を深める。</p>	<p>A：3人</p> <p>B：1人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な場面と重点目標から評価基準までの対応が整理されており、心が動く瞬間を見逃さないよう、日々丁寧に取り組んでいることが読み取れる。ただし、数値・程度・頻度等のデータがあれば、読み手は更にイメージしやすくなり、より良くなる。</li> <li>・子ども理解を深めようとする意識が園全体でよく見られ、保護者、園児に伝わっている。またそのことで園児等の相談意欲が高まり好循環となっていると思う。そして教師間の情報共有がなされ、園全体でのチーム保育が行われている様子が見て取れる。</li> </ul>
<p>【教育】</p> <p>好きなことを見つけ、「安心」「熱中」のもとあそびを展開する。</p> <p>身近な人との関わりを通して、言葉による伝え合いや、豊かな感性と表現を育む。</p>	<p>A：4人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見守っていく姿勢がとてもよい。</li> <li>・子どもが好きなことを見つけたことを教師が良く見ている。安心、熱中できる環境を整えていることが伝わってくる。また、学年毎に段階を踏んだ言葉の発達をよく理解し、子どもの様子を読み取り、押し付けではない、子どもの表現を尊重して導く教育ができています。そして年齢やこども一人ひとりの特性に教師が知識と観察の結果からどう動くかを大切にしているように見られ、過去の経験に捉われず、よく生かしている。</li> </ul>
<p>【保護者理解】</p> <p>園生活を通じて、わが子の「みんなの中の一人」として成長を感じ、満足している。</p>	<p>A：4人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達に合わせた「みんな」に触れることが、入園前のわくわくくらぶから伝わっており、安心して入園、卒園できる。</li> <li>・保護者アンケートから、教師と保護者とのコミュニケーションがよく取られていることがわかり、とてもよい。</li> </ul>
重点目標や評価項目のあり方		・適切である。
学校評価の進め方		・年度初めに、保護者に対して、学校評価の取組意義や内容、スケジュールを周知し、園の取組をもっとアピールしてもよいと思う。

評価員4人から評価票を返信いただいた。結果は、3つの評価項目において、概ねA評価であった。また、「感想と所見」の記載から、おおむね園の取組に対して肯定的に評価していただいた。近年、園児数が減っており、一人ひとりをいかした教育は実践できているが、集団形成という視点からはさらに取組の工夫が必要かもしれない。園児募集に努めるとともに、少人数教育のより良いあり方について、検討を進めたい。

## おわりに

自己評価に関して、教育理念として「あそびが充実し、学びが深まる教育」を掲げ、主に教育課程・指導の質の向上を目指して取り組んできている。また令和2年度の重点目標は、「身近な人との関わりの中での育ち～言葉の伝え合い・豊かな感性と表現～」として園教育をすすめてきた。令和2年度の重点目標については、来年度も引き続き学びを深めていきたい。

学校関係者評価では、評価員の方々から様々なご意見とエールをいただき、心強さを感じることができた。また新しい取り組みに関するヒントもいただき、今後の園教育の展開を考えるうえで参考としたい。

第三者評価は今回実施しなかった。今後は数年に一度、評価項目を厳選して実施したい。

最後に、今回の学校評価にあたり、快くご協力をいただいた評価員の方々ならびに、一年を通してあたたかいご支援とご協力をいただいた保護者の方々にも、心から感謝の意を表します。ありがとうございました。